

身体機能評価学

[講義・演習] 第2学年 後期 必修 1単位

《担当者名》○本家寿洋 honke@hoku-iryo-u.ac.jp 齋藤隆司

【概要】

作業療法は、身体機能障害に特有な疾患が生じても心身両面を包括的に関わることが重要である。本講義では、脳血管疾患およびパーキンソン病に特有の検査・評価を学修することと、全ての疾患に使用できる面接評価を学ぶ。

【学修目標】

【一般目標】

1. 身体機能作業療法の脳血管疾患、パーキンソン病に対する評価法を理解する。
2. 面接や観察による評価を理解する。

【行動目標】

1. 各疾患の作業療法評価を説明できる。
2. 面接や観察の評価を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	脳血管障害の評価(1)	脳血管障害の評価に最低限必要な関連知識や機器・ラインを学ぶ。	本家寿洋
2	脳血管障害の評価(2)	片麻痺の中枢性姿勢制御機構と協調性、筋緊張の評価を学ぶ。	本家寿洋
3	脳血管障害の評価(3)	運動麻痺の評価であるBrunstrom Recovery Stageと片麻痺機能テストの概要を学ぶ。	本家寿洋
4	脳血管障害の評価(4)	脳血管障害の急性期の評価を学ぶ。	本家寿洋
5	脳血管障害の評価(5)	脳血管障害の回復期・維持期の評価を学ぶ。	本家寿洋
6	脳血管障害の評価(6)	脳卒中の合併症やリスク管理を学ぶ。	本家寿洋
7	パーキンソン病の評価	パーキンソン病の作業療法評価を学ぶ。	齋藤隆司
8	運動麻痺の評価-Brunstrom Recovery Stage-	上肢・手指・下肢のBrunstrom Recovery Stageを実技を通して学ぶ。	本家寿洋
9	運動麻痺の評価-片麻痺機能テスト-	上肢・手指の片麻痺機能テストを実技を通して学ぶ。	本家寿洋
10	運動麻痺の評価-片麻痺機能テスト-	下肢の片麻痺機能テストを実技を通して学ぶ。	本家寿洋
11	カナダ作業遂行モデル	カナダ作業遂行モデルとCOPMの評価法を学ぶ。	本家寿洋
12	面接による評価(1)	面接評価であるOPHI- の評価法を学ぶ。	本家寿洋
13	面接による評価(2)	SF-36およびCEQの評価法を学ぶ。	本家寿洋
14	観察による評価	観察で評価するMOHOSTの評価法を学ぶ。	本家寿洋
15	面接による評価(4)	余暇活動の楽しさ評価法を学ぶ。	本家寿洋

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

試験100%で評価する。

【教科書】

能登真一 他 編 「作業療法評価学 第3版」 医学書院 2017年

【参考書】

吉川ひろみ 他 編 「作業療法がわかるCOPM・AMPS実践ガイド」 医学書院 2014年

澤俊二 他 編 「作業療法評価のエッセンス」 医歯薬出版 2013年
小林隆司 編 「身体障害作業療法学1 骨関節・神経疾患編」 羊土社 2019年
小林隆司 編 「身体障害作業療法学2 内部疾患編」 羊土社 2019年
長崎重信 監修 「作業療法ゴールドマスターテキスト3 作業療法評価学」 メジカルビュー社 2012年
Karen Schultz 著 「シュルツ・上肢の痛みの評価法」 協同医書出版 2003年
日本作業療法士協会 監修 「作業療法学全書 第3巻 作業療法評価学」 協同医書出版 2010年
坪田貞子 編 「身体作業療法クイックリファレンス」 文光堂 2010年

【学修の準備】

1. 次の講義の該当部分の教科書を事前に読んだうえで講義に臨む(80分)。
2. その日に講義した内容は説明できるようにする(80分)。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2. 作業療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

【実務経験】

本家寿洋(作業療法士) 齋藤隆司(作業療法士)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験を活かして講義を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している